

## 不安の中での再開に向けて



萩原 聡

(全国高等学校長協会会長・東京都立西高等学校長)

## 多方面に多大な影響が

今回の新型コロナウイルスについては、高校教育にも大きな影響が出ています。

まずは生徒への影響です。高校でも早いところでは3月から休校となっており、当然、授業ができていません。4、5月に入ってからオンライン授業等が一部で導入されたりもしていますが、家庭によってインターネット環境が違いますので、あくまで一部にとどまっています。私の学校も当初は課題をメール等で送ってもいましたが、結局、郵送に切り替え対応しているところではあります。

学校行事もほとんどできていません。卒業式はギリギリできたところも多いようですが、入学式はほとんどが実施できていないようです。特に3、4月は行事が多いので、影響は大きいです。部活動も同様です。今年度のインターハイは中止が決定していますし、甲子園も春夏とも中止となりました。関連する県やブロック単位の予選大会も軒並み中止です。文化系の大会も同様です。特に演劇や演奏会等は密が高くなる傾向がありますか

ら、運動部以上に厳しいかもしれません。さらに、こうした部活動関係の大会は練習等、準備が必要ですから、すぐに再開することも難しいと思われます。

行事（特別活動）や部活動については、生徒たちが本当に悔しい思いをしていますし、進路にも影響を与えます。特に大学の総合型選抜（旧AO入試）やいわゆるスポーツ推薦等では、大会記録が評価の材料になることも多いので、今後の選抜にどういった影響を与えるか不安なところではあります。

私たち全高長も、5月に予定していた総会・研究議会を中止せざるを得なくなりましたし、普通科をはじめとする各専門学科別の校長会も中止となります。校長会発足以来のことですが、感染防止の観点からやむを得ないと思います。

## 不安の中での学校再開

高校教育にも多大な影響を与えている新型コロナウイルスですが、5月25日に北海道や首都圏も緊急事態宣言が解除となりました。学校も再開されることとなりますが、第2

波、3波も予想される中、非常に不安が多い中での再開と言わざるを得ません。もちろん、生徒の学習の遅れを考えると少しでも早く再開されるべきでしょうが、健康面を考えると本当に心配なことは多いです。

そもそも、マスクや消毒液などの消耗品、体温計などは手に入りにくい状況が続いていますし、万が一、感染したと思われる生徒が出た場合の措置など不透明な部分があります。登校時の電車やバスの密集をどう避けるかという問題もあります。各教科でも調理実習や水泳など特に濃厚接触が予想される単元の指導はどうしていくのか、不安は尽きません。

私たちももちろん、3月の休校以来、いつ再開となってもいいように何度もシミュレーションを重ねています。ただ、こう先が見えないとどうしても不安が募ってしまいます。また、9月入学などの話にもわかに出ていますが、6月再開で夏季休業期間を短縮するなどとしても、遅れをどの程度まで取り戻すことができるかわかりません。いずれにしろ、すぐに昨年度通りに戻るのは難しいでしょうから、今年度中は分散・時差登校、オンライン

学習との併用など、変則的に考えなければならぬと思つています。

### 一番の不安は進路指導

そして、最も不安が大きいのは進路指導です。大学入試については、そもそも新たに大入試共通テストが始まる予定でしたから、それだけでも不安が大きかったので、このコロナ騒動で不安は倍増しています。早いところでは9月から総合型選抜(旧推薦入試)や学校推薦型選抜が始まりますから、予定通りの選抜日程となるのか、そもそも選抜ができるのかなどは気になる点です。また、一般選抜についても日程はもちろん、出題範囲や調査書の扱いなど、見通しは立っていないようです。

一方の就職指導も難しい状況です。7月解禁となりますが、今年はそもそも求人票のスタイルが変わる予定でしたから、このことだけでも対応が難しいですし、求人自体はかなり減るとの予測もあります。

さらに、そもそも3年生の4、5月は進路を固める大事な時期ですが、一度も指導がで

きていません。企業も大学も状況は一緒ですから、本当に大変かと思いますが、高校側からは、できれば全体的に1カ月程度、後ろに日程を繰り下げることをお願いしたいです。それだけでも遅らせていただければ、ある程度対応は可能かと思えます。いずれにしても、この辺の調整を文科省が中心となり、取り組んでいただきたい。生徒や保護者の不安も相当強いですから、ぜひお願いしたいです。

### 現場での判断が大切

今回の件ではどの学校も相当苦勞していると聞きます。特に先が分からない中、これまでもであれば文科省や教育委員会の指示を待っていたればよかったという面がありました。ただ、だれも先が分からない状況では、それは難しい。折しも、生徒に「答えのない課題に取り組ませる」と言っているわけですから、学校や教職員自体が取り組まなければなりません。各校長はビジョンを明確に持ち、全国の情報、他校の対応状況をしっかりと把握し、教職員と協働して、引き続き対応に当たっていただきたいと思えます。

(談)

2021年度大学入試日程を  
めぐって

## 本誌編集部

今年に入って猛威を振るう新型コロナウイルスが、教育活動にも大きな影響を与えている。特に高校現場が気になるのが大学入試に関する日程だろう。結論的には、6月19日に文部科学省より「令和3年度大学入学者選抜実施要項」(以下、実施要項)が公表された。しかし、6月にはこの日程をめぐって大きな動きがあった。ここでは、その動きと「実施要項」で明らかになった、2021年度入試の変更点をまとめる。

## 全高長アンケート

大学入試日程をめぐっては、全国高等学校長協会(全高長)が、文部科学省からの要請を受け6月頭に「令和3年度大学入試についてのアンケート調査」を行った。対象は全国高等学校長協会会員校 5276校(国立・24校、公立・4012校、私立・1240校)、回収校数は4360校(回収率・82・6%、内訳は国立・19校、公立・3250校、私立・1091校)となっている。設問は「1. 入試日程について」「2. 受験機会確保

の工夫について」「3. 共通テスト、各大学の一般選抜の出題範囲等について」の三つ。

まず「1. 入試日程」について、総合型選抜(旧AO入試)・学校推薦型選抜(旧推薦入試)・大学入学共通テスト(共通テスト)、それぞれ日程について当初予定通りか、後ろ倒しかを問うた。

結果、総合型・学校推薦型については「当初予定通り」が約5割、「2週間」「1カ月程度」後ろ倒し」が合わせて約5割と半々となった。一方、共通テストについては「予定通り」は約3割、「予定通りだが予備日も明確に」が約4割、「後ろ倒し」は約3割という結果となった。

また、「3. 出題範囲」についても触れておきたい(複数回答)。設問(1)の地歴、公民、理科での各大学での配慮については、「①現時点で予定している方法」が59・2%、「②地歴・公民、理科はI科目に減じることができる」が32・7%、「③指定科目以外への科目変更可」が31・0%、「④その他」が10・1%となっている。(2)の出題範囲については

「①従来どおり」が39・2%、「②限定を設けるべき」が60・8%、関連して(3)のよ  
うな限定を設けるべきかについては、「①選  
択問題の設定」が77・7%、「②「発展的な学  
習内容」からは出題しない」が30・3%、「③  
地歴、公民、理科について特定の単元から出  
題しないことを明確に」が67・4%となつて  
いる。

この結果からは、高校3年生で履修するこ  
とが多い地歴、公民、理科の科目は、出題範  
囲に制限を設けてほしいと考えていることが  
明らかになった。

### アンケート結果と「要望書」

こうした結果を受け、6月10日頃には早く  
も一部マスコミからは「予定通り実施」とい  
う見出しも躍った。しかし全高長自身は、ア  
ンケート結果は結果として受け止めながら、  
「いまだに教育活動が完全には再開できてい  
ない学校があり、こうした学校では入試日程  
の後ろ倒しを望んでいる。入学者選抜の制度  
として、授業の再開状況が厳しい学校に対し

て配慮することが、こうした学校に在学する  
生徒や保護者の不安を解消することにつなが  
ると考える」と萩原聡会長がコメントした。

その後、このアンケート結果について議論  
するために、6月6・13日に緊急の都道府県  
協会長研究協議会をオンラインにて実施。13  
日の会はマスコミ関係者にも公開され、取材  
の時間も設けられた。

会では全国の協会長による活発な意見交換  
が行われ、「アンケート結果では『予定通り』  
が多かったが、首都圏を中心に授業に大幅な  
遅れが出ているところに合わせるべき」「総  
合型・学校推薦型選抜、共通テスト、一般選  
抜等パッケージとして後ろ倒しにすること」  
等、一定の結論が出された。

こうした経緯を経て、萩原会長は6月11日  
の関係者等で作る「大学入学者選抜方法の  
改善に関する協議」(非公開)で、厳しい状況  
にある3割の高校に配慮してほしい旨を発  
言。また、入試日程を全体的に1ヵ月程度後  
ろ倒しするなどの全高長としての公式見解を  
まとめた「要望書」も作成し、15日に国立大

学協会、日本私立大学団体連合会等に提出。  
文部科学省へも提出したが、私立高等学校等  
の意向が反映されてないとして受け取りを拒  
否された。17日にも協議は開かれ、結果、総  
合型選抜は2週間の後ろ倒し、共通テストは  
予定通り実施だが2週間後に「追試験」が設  
定されること等が確認された。そして、6月  
19日夜に「実施要項」が発表となった。

こうした一連の経緯を巡って萩原会長は、  
以下のようにコメントする。

「文科省に対して、全高長は、新型コロナウ  
イルスの影響で休校が長引いた地域の生徒の  
学習の遅れに配慮し、大学入試の全日程を1  
ヵ月程度後ろに倒してほしいと要望してき  
た。

本来は例年以上に時間をかけて検討すべき  
ところ、十分な検討もせず短期間に実施要項  
が取りまとめられたことは極めて残念であ  
る。この実施要項で実施するのであれば、学  
習面で厳しい高校生への十分な配慮を、文科  
省と大学が責任をもって確実に遂行してほし  
い。全高長として、今後の進展を見てさらに

意見するとともに、実施後の検証も含め要請していく」

## 「実施要項」に見る2021年度入試の変更点

6月19日の2021年度大学入試の実施要項本文は、文部科学省ホームページ「大学入学者選抜について」からPDFファイルをダウンロードできる（「入学者選抜実施要項」で検索）。大きな変更点としては以下となる。

### ○共通テストについて

・日程は、当初予定通り2021（令和3）年①1月16、17日、②1月30、31日に実施。

②は新型コロナウイルス感染症の影響等に伴う学業の遅れを理由に現役生のみ出願することができる。さらに「特例追試験」として2月13、14日にも実施。

・各大学には、高校第3学年で履修することの多い地理歴史、公民、理科の科目指定に関して配慮を求める。

### ○一般選抜などの個別学力試験について

・日程は、当初予定通り2021（令和3）

年2月1日～3月25日に実施。

・新型コロナウイルス感染症への対応として、各大学に追試験の設定、追加受験料の徴収なしの別日程への振り替え等求める。

・出題範囲に関して、高校第3学年で履修することの多い科目については問題選択できるようにすることや、「発展的な学習内容」からは出題しないなどの配慮を求める。

### ○総合型選抜・学校推薦型選抜について

・日程については、総合型選抜の出願開始は9月15日（2週間後倒し）、学校推薦型選抜の出願開始は11月1日（現行のまま）。

### ○調査書について

・新型コロナウイルス感染症の影響による、大会、資格・検定試験の中止等を踏まえ、第3学年の評定、特別活動の記録や指導上参考となる諸事項の記載を「新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業のため記載不可」等とし、記載不可とすること。あるいは「○○○に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止」等と理由を付して、当初参加予定だった大会名や資格・検定

試験名などを記載することが求められる。

・各大学は、臨時休業による出席日数の減少等、特定の志願者が不利益にならないように配慮することが求められる。

○その他、新型コロナウイルス感染症対策に伴う配慮

・新型コロナウイルスの影響で選抜方法見直しを検討している場合は、志願者へ速やかにその検討状況等を発信する。

・「新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」の策定。

・新型コロナウイルス等の感染拡大の状況によつて本要項自体の見直し、試験期日の再検討なども明記されている。

このように大学入試日程等がまとまったことで、学校や生徒、保護者も一安心かもしれない。しかし、登校再開が本格化している現在でも、首都圏を中心に依然として一定数の感染者が出ていることを考えると、油断は禁物だ。まずは今回公表の要項を確認するとともに、今後の動きにも注意されたい。